

「建議 中間とりまとめ」などを踏まえた 制度の見直しについて

「建議 中間とりまとめ」などを踏まえた制度の見直しについて

○「社会資本整備審議会道路分科会建議 中間とりまとめ」(H24.6)

概要(抜粋)

IV 具体的施策の提案

1. 道路の賢い使い方による多様な利用者の共存
 - ・多様な利用者が共存する道路空間の形成
 - ・交通事故削減のための更なる効率的・効果的な取り組み
 - ・利用者責任の明確化も含めた道路の適正な利用の徹底(トレーラ連結車など大型車両の指導取締りの実効性向上等)
2. 道路が有する新たな価値の創造
3. 交通結節機能の充実・高度化、公共交通利用の促進
 - ・主要な空港、港湾、鉄道駅などへのアクセス向上
4. 基幹ネットワークの戦略的な整備・活用
 - ・大都市・ブロック中心都市におけるネットワークの緊急強化
 - ・整備プロセスの透明化
 - ・国土のミッシングリンクの迅速・効率的な解消
 - ・効率的な物流ネットワークの強化
5. 防災も含めた国土の信頼性確保
 - ・大規模広域地震への備え
 - ・様々な手段を効果的に活用した災害情報の提供
 - ・全国各地で頻発する集中豪雨や大雪に対する道路網の信頼性と安全性の確保
6. 持続可能で的確な維持管理・更新
 - ・道路ストックの長寿命化
 - ・効率的な維持管理の実施
7. 低炭素型モビリティの普及促進に向けた対応道路空間のグリーン化

V 施策の進め方についての提案

1. 多様な利用を促進する新たな枠組みの検討
 - ・道路の利用に対する新たな枠組みの検討(「道路の利用に関する計画(仮称)」)
 - ・レベル(地域、地域圏、全国)毎の課題に応じた「道路網管理」の考え方の導入
2. 利用者との協働による道路の総合的なマネジメントの導入
 - ・利用者の視点に立ったニーズの把握
 - ・多様な主体との協働
3. 早期の事業効果発現のための環境整備と評価の充実
4. 技術開発・活用による品質確保と道路の進化
5. 持続可能で多様な財源制度
 - ・持続可能で公正な高速道路料金制度への転換
 - ・道路の維持、管理、更新などにかかる新たな負担のあり方
 - ・PPP/PFIの積極的な導入

○社会資本の適切な維持管理・更新に対するニーズの高まり

(インフラの老朽化の進展、中央道笹子トンネル事故等も踏まえ)

○緊急性の高い課題

1. 高度経済成長期に集中的に整備された道路の老朽化の進行を踏まえ、予防保全の観点から、的確な維持・修繕をどのように進めていくか？
2. 南海トラフ巨大地震や首都直下地震等様々な災害に備えて、防災・減災も含めて国土の信頼性をどのように確保していくか？

<対応の方向性>

1. 道路構造物の予防保全・老朽化対策

【道路の維持・修繕の充実(ハード対策)】

- 道路の予防保全の観点から点検を含む維持・修繕の実施
- 点検結果の調査による、国による技術開発等の促進
- 地方自治体の修繕に対する国による支援の強化

【大型車両の通行の適正化(ソフト対策)】

- 大型車両の通行を誘導すべき道路を指定(効率的な物流ネットワークの構築)
指定された道路における大型車両の通行許可の迅速化
- 重量制限違反を繰り返す車両の使用者等に対する監督の強化

2. 道路の防災・減災対策の強化

【大規模地震等の災害への備えの強化】

- 緊急輸送路など防災上重要な道路における物件等の占用禁止・制限
- 地震による倒壊により、道路を閉塞する可能性のある電柱の地中化の支援
- 民間団体等と道路管理者との協定締結による道路啓開等の実施

<<道路の適切な管理を推進するための枠組みの構築>>

- 道路管理者等の連携による効果的な管理のための協議会
→防災上重要な道路等の管理方法の取決め(道路啓開路線の選定等)

〔 防災の他、並行する路線間の調整(歩道、自転車通行空間の確保等)など
地域の様々な課題にも対応 〕